彦根市埋蔵文化財調査報告書第35集

段ノ東遺跡 III

—大阪ガス㈱近畿幹線滋賀ライン建設工事に伴う調査—

平成17年１月

彦根市教育委員会

目　次

例言
Ⅰ　はじめに ―― 1
Ⅱ　位置と環境 ―― 2
Ⅲ　発掘調査の成果 ―― 4
　基本土層 ―― 4
　検出遺構 ―― 4
　出土遺物 ―― 4
Ⅳ　おわりに ―― 6
写真図版

例　言

1．本書は、大阪ガス株式会社幹線建設プロジェクト部滋賀事務所が実施する近畿幹線滋賀ライン建設工事に伴って実施した段ノ東遺跡第３次調査の発掘調査の成果を納めたものである。
2．本調査の調査地は、彦根市犬方町字道地188－１に位置する。
3．本調査は、平成16年７月５日～７月８日まで現地調査を行い、その後資料整理を行った。
4．本調査は、彦根市教育委員会文化財課が実施した。調査の体制は下記のとおりである。

課　長：花木　勉	課長補佐（兼係長）：三浦　顕
副主幹：尾﨑　洋	主　　査：谷口　徹
主　任：志萱昌貢	主　　任：水谷千恵
主　事：西村真理子	臨時職員：早川　圭

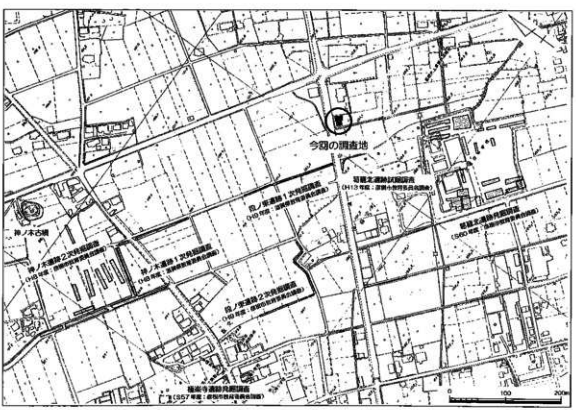
5．本書は谷口と早川が執筆し、文末に記した。
6．本書で使用した方位は、平面直角座標第Ⅳ系の座標北に、高さは東京湾平均海面に基づいている。
7．本調査で出土した遺物や写真・図面等は彦根市教育委員会で保管している。

Ⅰ　はじめに

本書は、大阪ガス株式会社幹線建設プロジェクト部滋賀事務所が実施する近畿幹線滋賀ライン建設工事に伴う、段ノ東遺跡（彦根市犬方町字道地188-1所在）の発掘調査成果をまとめたものである。調査は、シールド工法による立坑設置箇所とその土砂ピット箇所について、平成16年7月5日に試掘調査を行ったところ遺構を確認したため、引き続いて同月8日まで本調査を実施し、以後整理作業を行った。

調査にあたっては、大阪ガス株式会社幹線建設プロジェクト部滋賀事務所を始めとする関係者にご理解とご協力を賜った。厚くお礼を申し上げたい。　（谷口）

調査地位置図



調査地および周辺の調査状況

II　位置と環境

段ノ東遺跡は、滋賀県彦根市犬方町・金剛寺町に所在する古墳時代から奈良・平安時代の遺跡である。遺跡は、鈴鹿山地から琵琶湖へ注ぐ犬上川の中流左岸に位置し、多賀町楢崎付近を扇央とする犬上川扇状地の扇端にあたる。標高は約100m付近で、さらに扇端となる下流の標高約97m付近にかけては、犬上川の伏流水が集落や水田の各所で自噴した湧水池や井戸がみられる。今回の調査地の北西隣にも湧水池があったことが知られる。

遺跡の周辺は南西から北西の方向へ向かって、現在の国道8号線やJR東海道線・東海道新幹線が通過しており、かつて中山道や古代東山道が通過していた。とりわけ古代東山道は調査地から南東約500m付近を通過していたものと想定され、尼子西遺跡では実際に道路面や側溝が検出されている。

段ノ東遺跡とその周辺の遺跡については、遺物散布地として詳細が不明なものが多かったが、近年の農地改良工事や宅地開発に伴う発掘調査によって徐々に詳細が明らかになりつつある。

縄文時代には、犬上川の右岸に所在する福満遺跡が中期から晩期を中心とする遺跡として知られている。左岸上流の小川原遺跡（甲良町）では後・晩期の炉や配石・集石遺構などが多数確認されている。また、神ノ木遺跡では後期の土器片が出土し、南川瀬南遺跡でも晩期の土器片を含む包含層が確認されている。

弥生時代には、前期の遺跡は不明な点が多いものの、中期には肥田西遺跡、掘立柱建物集落である川瀬馬場遺跡（旧馬場遺跡）や、後期にかけての竪穴住居が検出されている妙楽寺遺跡などが宇曽川周辺にみられる。また、段ノ東遺跡の西側の堀南遺跡では後期の方形周溝墓3基を確認している。

古墳時代には、琵琶湖側にある独立丘陵である荒神山の稜線上に前期後半の前方後円墳である荒神山古墳が築かれる。段ノ東遺跡周辺では横地遺跡で前期の土器が出土しており、堀南遺跡や竹ヶ鼻遺跡でも前期とみられる住居を検出している。後期には横地遺跡・堀南遺跡で円墳や竪穴住居がみられ、なかでも堀南遺跡では竈付きの竪穴住居を検出している。荒神山に数十基からなる群集墳である荒神山古墳群、段ノ東遺跡に隣接する葛籠北遺跡に円墳や土坑墓が営まれるのもこの頃である。

奈良時代から平安時代にかけては、南川瀬南遺跡・葛籠北遺跡・葛籠南遺跡・福満遺跡・法士南遺跡で竪穴住居や掘立柱建物を確認している。竹ヶ鼻廃寺遺跡では白鳳～奈良時代の瓦が出土している他、奈良～平安時代の掘立柱建物群が検出している。竹ヶ鼻廃寺遺跡に隣接する品井戸遺跡では包含層ではあるが滑石製の石帯が出土しており、官衙に関連する遺構・遺物が犬上川右岸で確認されつつある。

さて、段ノ東遺跡は平成9年度に滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会（以下「県」）、彦根市教育委員会（以下「市」）によって相次いで発掘調査を行っている。いずれ

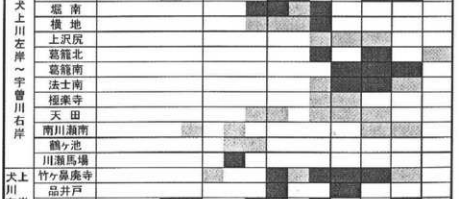
も農業基盤整備事業に伴なうもので、調査範囲は排水路敷設部分に限られているが、古墳時代および奈良～平安時代の遺物・遺構を確認している。

県の調査は、遺跡の中央を南東から北西へ横断する形で行われた。遺跡東側の１～４Ｔでは、１Ｔの奈良時代の竪穴住居、４Ｔの奈良時代の掘立柱建物を中心に溝・土坑・柱穴が検出されている。出土遺物も奈良～平安時代のうち８世紀代を中心に須恵器・瓦・鉱滓などがみられる。遺跡西側の５～７Ｔでは、各区で古墳時代後期の円墳や方墳が検出され、６世紀代を中心に須恵器や埴輪が出土している。また、奈良時代の瓦を伴なう溝や平安時代の柱穴が検出されている。

遺跡の南端付近で行われた市の調査では、重弧文軒平瓦や、古墳時代後期～奈良時代と考えられる掘立柱建物や土坑・溝を検出している。

このように段ノ東遺跡では、遺跡の西側で古墳時代後期の古墳群、東側を中心に奈良時代から平安時代の掘立柱建物などの遺構が確認されている。遺物も須恵器を中心に埴輪・瓦・鉱滓などの多様な遺物がみられる。隣接する堀南・神ノ木・横地・葛籠北遺跡などの存在を考慮すれば、段ノ東遺跡周辺には古墳時代～奈良・平安時代の遺構・遺物が広がっていることが想定できる。（早川）

〔主要参考文献〕
『段ノ東遺跡―河瀬土地改良区ほ場整備事業に伴う―』彦根市教育委員会　1998
『堀南遺跡・神ノ木遺跡』滋賀県教育委員会・㈱滋賀県文化財保護協会　1999
『段ノ東遺跡』滋賀県教育委員会・㈱滋賀県文化財保護協会　2000



段ノ東遺跡とその周辺の主要遺跡の消長

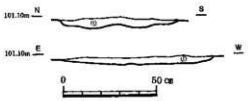
Ⅲ　発掘調査の成果

基本土層

調査地は、標高101.5m前後の水田が広がっている。水田の耕作土は新旧2層あり、その下には鉄分の沈着のため黄褐色化した粘質土が床土を形成する。そして、その直下に遺構面となる灰褐色粘質土が厚く層を成している。試掘時の深掘りでは深さ150cmまで変化のない安定した土層であった。地表から遺構面までは、およそ50cmを計る。この層の上部は酸化マンガンの沈着が著しくて遺構の確認が困難なため、さらに10cm程度掘り下げて遺構検出を行った。

検出遺構

調査では、立坑が設けられるT01トレンチ（立坑トレンチ）と土砂ピットとなるT02トレンチ（土砂ピット・トレンチ）の2つのトレンチを設定した。T01トレンチは99m²、T02トレンチは49.5m²である。重機による掘削の後、遺構面を精査したところ、T01トレンチの北西隅で2つの土坑（SK01・SK02）を検出したほか、両トレンチで多くの柱穴を確認した。



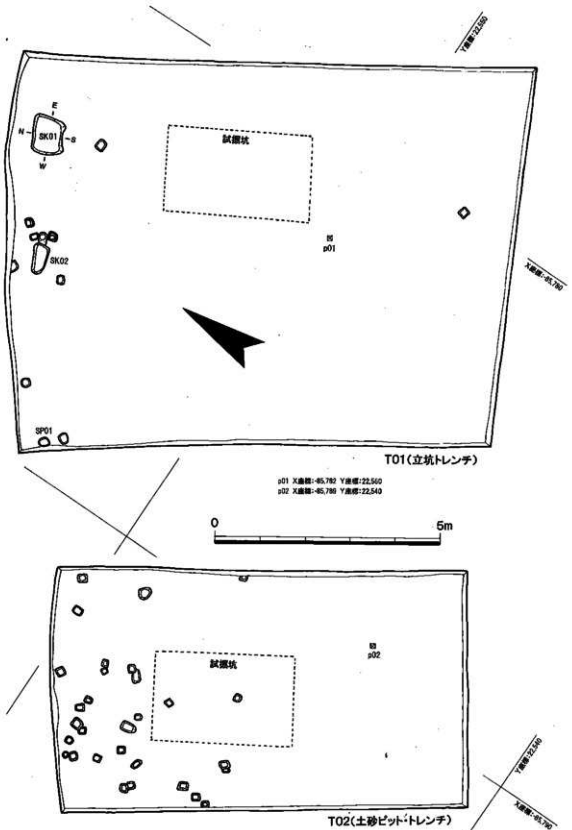
SK01断面図

SK01は若干歪ながら東西80cm、南北60cmの隅丸方形を呈する土坑である。もっとも深い箇所でも10cmしかない浅い皿状をなす。土坑内には①黒褐色粘質土が堆積する。層内には炭化物と焼土が多量に混入しているが、土器は出土しなかった。SK02は不定形な楕円形を呈する土坑である。東西60cm、南北30cm、断面はU字状、もっとも深い箇所で30cmを計る。土坑内にはSK01同様に黒褐色粘質土が充塡されており、層内から土師器片が2点出土している。

多数検出した柱穴は、T01トレンチとT02トレンチの北西側に集中している。いずれも直径が20～30cm、深さが20cm程度の小規模なもので、方形と円形プランの2種が識別される。埋土は土坑と同様に黒褐色粘質土であり、多くが掘り方と柱穴を明確に区分することができない。おそらく柱穴とほぼ同規模の簡易な掘り方が掘られたためであろう。方形プランの柱穴を詳細に見ると、各辺がほぼ南北・東西方位のものと、そうでないものがある。時期差を示すのであろうか。そのことも考慮に入れながら建物プランも検討したが、現状の調査範囲では明確に建物を復元するには至らなかった。柱穴の規模から推測すると、一部は建物ではなく柵であった可能性も考えられる。T01トレンチの SP01からは土師器の小片が出土しているが、時期を決するに足る資料とはならなかった。

出土遺物

出土遺物は、わずかに土師器片3点と須恵器片1点である。土師器片の3点は、検出遺構の項で述べたとおりSK02から出土した2点とSP01の1点である。また、須恵器片はT01ト



T01・T02検出遺構図

レンチの床土から出土したもの。いずれも小片であり、器種や器形の復元および図化は不可能であった。（谷口）

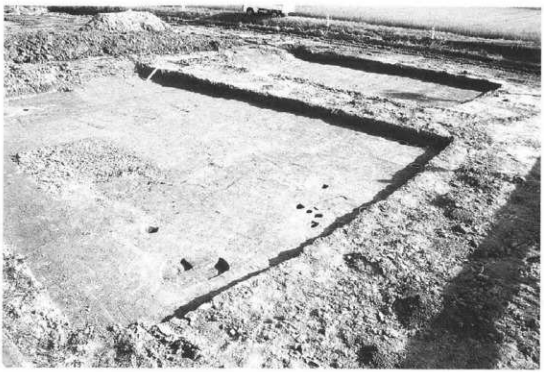
Ⅳ　おわりに

今回の調査域は約150㎡の小規模なものであり、検出遺構も土坑と小規模な柱穴群のみであった。しかも遺構を検出したのは調査域の北西側に限られていた。おそらく、さらに西側一帯に広がる段ノ東遺跡の南東端に位置していると考えられ、集落の縁辺部にあって土坑や小規模な掘立柱建物や柵などか構築されていたのであろう。

位置と環境の項でも詳述しているように、これまで段ノ東遺跡では県と市で発掘調査が実施されている。とくに県の調査地と今回の調査地は80ｍほどの至近距離にあり、今回の検出遺構を検討する上で参考になる。県が検出した遺構を概観すると、細長い調査域の西側で古墳時代後期の古墳群が、また東側では奈良時代前半の竪穴住居や奈良時代後半の掘立柱建物など奈良時代を中心に平安時代に至る遺構が集中している。西側の古墳群は、さらに西方の神ノ木古墳や神ノ木遺跡に連なる遺構であり、東側の奈良・平安時代の集落跡が今回の調査地まで広がって北西側で終息していると考えられる。

一方、今回の調査地のすぐ南東には葛籠北遺跡が存在するが、昭和60年度の彦根市の発掘調査や平成13年度の彦根市の試掘調査の結果を総合すると、葛籠北遺跡のほぼ中央を、東西方向に厚い砂礫の堆積する旧河道が縦断しており、その流れは今回の調査地南側にまで及んでいたようである。

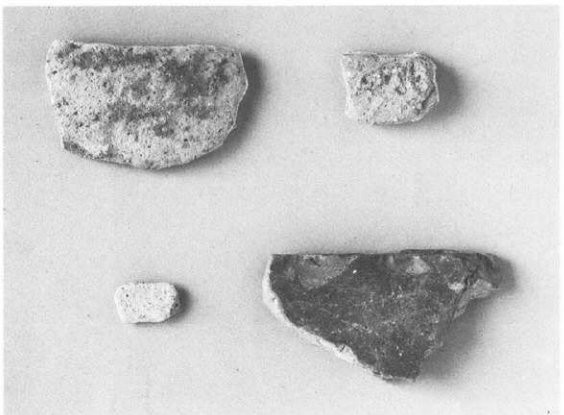
旧河道は、犬上川がかつて網状に流れを刻んでいた痕跡であろう。当地一帯は犬上川左岸の扇端部に位置している。犬上川が砂礫とともにもたらした肥沃な土壌は、網状流の間の微高地に集落を点在させることにもなった。周囲には、段ノ東遺跡や葛籠北遺跡のほかにも法士南遺跡・葛籠南遺跡・長畑遺跡・尼子西遺跡・南川瀬南遺跡・極楽寺遺跡・天田遺跡など奈良・平安時代の遺跡が旧中山道をまたいで広がっている。（谷口）



調査地全景（北より）

T01トレンチ（北東より）

T02トレンチ（南より）



出土遺物（上段２点は SK02、下段左は SP01、下段右は床土より出土）

報告書抄録

ふりがな	だんのひがしいせき
書名	段ノ東遺跡Ⅲ
シリーズ名	彦根市埋蔵文化財調査報告書　第35集
編著者名	谷口 徹・早川 圭
編集機関	彦根市教育委員会 文化財課
所在地	彦根市尾末町1番38号
発行年月日	平成17年（2005年）1月

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査面積	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号					
段ノ東遺跡	彦根市 大方町 字道地 188-1	25202	202122	35度 13分 35秒	136度 14分 51秒	150㎡	20040705 ～ 20040708	管埋設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
段ノ東遺跡	集落	奈良～平安	掘立柱建物 土坑	土師器	

彦根市埋蔵文化財調査報告書第35集

段ノ東遺跡Ⅲ

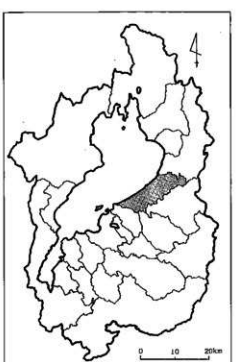
－大阪ガス株式会社近畿幹線滋賀ライン建設工事に伴う調査－

平成17年（2005年）1月発行

編集・発行：彦根市教育委員会文化財課
彦根市尾末町1番38号
Tel 0749-26-5833

印刷・製本：西濃印刷株式会社
岐阜市七軒町15番地

SITE OF DANNOHIGASHI III



January, 2005

Hikone Educational Bureau
Cultural Asset Division